

キビタキ (学名: *Ficedula narcissina*)

[スズメ目 ヒタキ科]



日本では、5月10日からの一週間を愛鳥週間と定めています。全国各地で児童や生徒のポスターコンクールが行われますが、バードウォッチャーにとっては鳥を見るための特別な期間です。なぜなら、この頃は夏鳥の多くが南から渡来し、繁殖のための美しいさえずりを聞かせるようになるからです。また、木々の葉が生い茂る前のこの時期は、比較的鳥が観察しやすいというメリットもあります。

キビタキは、インドネシアやフィリピンといった東南アジアで冬を過ごします。只見町にやってくるのは、オオルリより少し遅く、4月末から5月初めです。渡来直後は、あまり鳴き声を出さず、木の枝の間をさかんに飛び移ったり、地面に降りて採食をしています。その後、繁殖するためになわばりをかまえます。なわばりとは、メスや食物を他の個体に取りられないように独占する区域のことを言います。オスのキビタキは、なわばりを守るためとメスを引き寄せるために「ピーチュピリリ ピッピピリリ ピッピピリリ」と丸みのあるよく響く高い声でさえずります。昆虫類やクモなどを主な食物とし、沢や溪流沿いの森に多く生息しています。木のわれ目やキツツキの古巣などにおわん形の巣をつくり、子育てします。

キビタキは、のどから腹にかけて目の上の眉斑の黄色が特徴的です。目立つ色あいですが、新緑の中では、木れ日にとけ込み意外に目立ちません。オオルリより少し小さく、ちょうどスズメほどの大きさです。メスは、全身薄茶色をしており、オオルリのメスやコサメビタキとの区別は困難です。只見町では「ヒアカシ」と呼ばれてきました。

企画展示

「季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態」

期間：6月7日(日)まで開催中！

身近な風景の中に見られる野鳥の生態について、パネルや剥製などで紹介しています。

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

今月の表紙

雪崩の危険性があったため、只見線の大白川駅ー只見駅間は2月24日から運休となっていました。4月17日から待ちに待った再開通となりました。

今月の表紙は再開通のお祝いとして、只見保育所の子どもたちが只見線に手をふる様子を撮影した写真です。子どもたちは、列車が見えると「来た！来たあ!!」と言って緑色の車両に向かって両手で力いっぱい手をふってくれました。



△皆さんも、僕たち、私たちのように只見線に手をふってください！